公益社団法人 日本獣医学会

市民公開講座

本市民公開講座は、公益財団法人 伊藤記念財団の助成により開催しております。

テーマ 「牛伝染性リンパ腫の新規制御法の可能性を探る」

日　時 2022年2月5日（土）14:00～16:00

開催形式 Zoomによるオンラインウェビナー開催

1. 理事長挨拶および基調講演　14:00～14:20

猪熊 壽（公益社団法人 日本獣医学会　理事長）

演　題：**牛伝染性リンパ腫-現状と問題点**

2. 講演1　14:20～14:55（質疑応答を含む）

演　題：**牛伝染性リンパ腫における免疫学的解析を基盤とした新制御法の試み**

講　師：**今内 覚**（北海道大学院　獣医学研究院　感染症学教室　准教授）

座　長：猪熊 壽（東京大学大学院　産業動物臨床学　教授）

3. 講演2　15:00～15:35（質疑応答を含む）

演　題：**感受性・抵抗性牛を利用した新しい牛伝染性リンパ腫制圧戦略**

講　師：**間 陽子**（東京大学大学院　農学国際専攻地球規模感染症制御学講座　特任教授）

座　長：堀本 泰介（東京大学大学院　微生物学研究室　教授）

4. 総合討論　15:40～15:55

司　会：**内田 和幸**（公益社団法人 日本獣医学会　理事）

お申込み　**先着500名**

下記HPより参加登録を行ってください。
https://www.jsvetsci.jp/meeting/public_202202.php

お申込み期限

2022年1月31日（月）まで

講演 1

牛伝染性リンパ腫における免疫学的解析を基盤とした新制御法の試み

今内 覚 [1), 2)]

1)北海道大学大学院獣医学研究院病原制御学分野感染症学教室, 2)同先端創薬分野

牛伝染性リンパ腫(旧名:牛白血病)は、増加の一途をたどっており、日本の畜産業に甚大な被害をもたらす家畜衛生上の重大な課題となってしまいました。北海道大学大学院獣医学研究院は、古くから迅速診断に基づく農場での感染防疫対策を生産者個人から各団体・機関まで対象に幅広く長年行ってきました。一方、提供された臨床検体を用いて、本病の病態発生機序の研究も行ってきました。感染免疫・腫瘍免疫において病原体や腫瘍を排除する活性化リンパ球は、『免疫チェックポイント因子』によって制御され過剰な免疫応答が抑えられています。しかし一方で、牛伝染性リンパ腫を含む難治性疾病では、種々の免疫制御因子の暴走が、病態の進行および維持に関連することが示唆され、感染細胞や腫瘍細胞が排除されない免疫回避機序の一因であることを明らかにしました。また、これらに対する抗体により、疲弊化した免疫が再活性化され、抗ウイルス効果を示すことを確認しました。本病に対する新規制御法の可能性について、現在も各機関と共同研究を進めています。

講演 2

感受性・抵抗性牛を利用した新しい牛伝染性リンパ腫制圧戦略

間 陽子

東京大学大学院生命科学研究科農学国際専攻地球規模感染症制御学講座

牛伝染性リンパ腫ウイルス(BLV)は牛の悪性Bリンパ腫である地方病性牛伝染性リンパ腫(EBL)を誘発する。我々は最近、プロウイルス量が低値を示し発症し難い“抵抗性”牛と、反対の“感受性”牛の存在を発見した。そこで、BLVが蔓延している我が国において、経済的損失を最小限に抑えながらBLVの清浄化を進めてゆくためには、これまでのEBL対策に“疾患感受性の個体差”という新たな視点を加えて、“抵抗性牛”を生物学的防壁として活用する陽転阻止と感受性牛の特定によるBLV伝播高リスク牛の排除を同時に進めることで、感染牛と非感染牛を混合飼育しながらでもBLV陽転率を最大限に抑制可能なより広範な農家で実施できる「BLV清浄化対策」を提案したい。加えて抵抗性牛を指標として発症し難い、さらにプロウイルス量が上昇しない牛集団を作出するという「育種戦略」、あるいは感受性牛を標的とした「ワクチン開発」によるプロウイルス量の低下による、伝播の抑制や感染率の低下、といったEBL の新しい制圧戦略について紹介したい。